

復興まちづくり懇談会の開催結果報告

鵜住居地区の結果

分類

津波の避難

【教訓、考え方、行動】

- ・ まず逃げることの大切さを継承することが必要
- ・ この経験を如何に後世へ伝えていくかを考えることが必要
- ・ ハードやハザードマップなどに頼って安全を過信しないようにすることが必要
- ・ 子供たちの行動は見習うべき
- ・ 避難訓練は必要

- ・ 経験をいい方に考えていく。

震災で人の心は変わった / 情報のありがたさ / 近所が助け合った。(人と人の絆
かわらず) / 日常生活のありがたさ(お風呂、お米、電気・ガス、水道の大切さ)

- ・ 津波伝承の重要性
- ・ 今回は、ロープと軍手とアルミ、リュックサック、役にたった。
- ・ 過去の津波の実態を確認し安全・安心確保。過去の経験が活かされていない
- ・ 子どもはえらかった すぐ避難した。大人はダメだった ハードに頼った。
- ・ 避難防災マップはかえって良くない。(油断する)
- ・ 避難はまず逃げろ。避難は経験 + 訓練。
- ・ 防災意識の啓発不足
- ・ 津波に対して再認識し、関心を持って判断できるように整備。
- ・ 自主防災会で3日前(2/29)に訓練していた。
- ・ 情報をいっぱい集める。逃げる方法、六感、視・聴。
- ・ 若い人の認知度高める

【 避難施設に関すること 】

- ・ 避難情報の伝達方法を考え避難行動をスムーズに行うことが必要
 - ・ 災害時に釜石の中心市街地とつなげることが必要
 - ・ 三陸縦貫自動車道への避難道が必要
 - ・ 避難路の整備が必要
- ・ 避難をスムーズに行うため、避難情報の視覚化（回転灯による周知）
 - ・ 避難路を整備する。（すぐやるべし。1日でも早く。）
 - ・ 三陸縦貫自動車道へ逃げる道をつける 鉄の階段があって助かった人がいる。
 - ・ 釜石の中心市街地までつなぐことが重要
 - ・ 避難道路の整備が安心安全につながる。

公共施設の場所

- ・ 公共施設の今までの立地に対する反省をし、安全な場所へ設置することが必要

全般：公共施設は安全な場所へ 今までの立地を反省するべき

【防災施設】

- ・ 防潮堤等のハード整備も十分でないものは整備が必要
 - ・ 地形による安全性の確認が必要
 - ・ 多重防御を考えることも必要
- ・ 鵜住居、片岸の堤防は、施設としても不十分
 - ・ 多重防御で、消波を考慮する
 - ・ 地形による津波の大きさを確認して安全性を確保

【学校の場所】学校は絶対安全な場所へ（浸水しないエリアへ）

- ・ 学校は、非浸水域とし、幼稚園、小中学校等の子供が安全な位置とする。
- ・ 場所決めは、十分な調査をすること。
- ・ 学校をまちづくりの中心として考える

- ・ 学校をまちづくりの中心にする
- ・ 幼稚園、小・中学校はまとめて高台へ（海の見える所へ）
- ・ 浸水区域には作らない（こどもは安全な場所へ）
- ・ 山を切るなら山の上に（学校も住宅も）
- ・ 学校の場所、仮校舎の場所、通学時間、安全等を考慮した意向調査必要（建てる前に十分な調査を）
- ・ 今の校舎は、メモリアル施設として整備
- ・ 2～3案の中から、みんなで話し合う。北高跡地 学校。紀州造林 SMC。

【駅について】

- ・ 駅はお年寄りの利用が多いため、利用しやすいように段差を解消
- ・ 嵩上げて安全性の確保
 - ・ 駅は嵩上げるべき。
 - ・ 駅は利用しやすくするため段差なくして。

【安全な道路】

- ・ 三陸縦貫自動車道の早期整備の必要性
- ・ 地域内の道路の早期復旧の必要性
- ・ 津波の防御と一体となった道路の必要性
 - ・ 道路(冠水)、箱崎半島の道路。命の道路(安全、生活、産業)。
 - ・ 安全な道路づくり。
 - ・ 海上を利用した高速道の考案。高速道の下に津波が通る
 - ・ 三陸縦貫自動車道を早く整備する
 - ・ いまの国道をかさ上げる。
 - ・ 海上高速道に風力発電を設置する。
 - ・ 「古廟坂トンネル」から「恋の峠」まで高架国道にする
 - ・ 国道と防潮堤を一体化する JRと国道を一体化してはどうか

居住地

- ・ 居住可能な地域の明確か（非可住地の規制）
- ・ 元の場所にすみたい人を含めて、地域の今後の方向性や場所の確保が必要
- ・ 土砂災害等にも配慮が必要

- ・ 流された場所については、国・県で土地を買い取る すっきり。
- ・ 土地所有者への(浸水地域に)土地買い上げなどの補償。
- ・ 直して住みたい人もいる / 年配の人は元の場所に住みたい
- ・ 居住地の確保が大変
- ・ どこに建てていいのかはっきりして
- ・ 住宅建築できない地区は明確に条例等で規制すべき。
- ・ 住宅地に山が迫っている印象。
- ・ 建築許可が出たのがショック。大雨降ったらどうするの？
- ・ このまちに戻ってこられるかどうか、3年で。
- ・ 他の地域との関わりは？ 主にベッドタウン。
- ・ 山を崩して住宅地に。
- ・ 津波に遭わなかった施設、家屋の調査確認で安全・安心を確保。
- ・ これからのまちづくり、御箱半島など地域資源の活用。

生業・雇用の確保

- ・ 高齢者を呼んで住んでもらい地域を盛り上げていく
- ・ 働く場所を確保することが課題
- ・ 雇用の問題が大きな問題

SMC が来ると思って貸家を建てた人もいる。来ないと知ってがっかり、2 月前の説明会。

・ 高齢者を呼ぶ 経済効果あり。(根浜が適地。海あり。 日向が良い。山あり、これから考える。)

釜石は老人施設を、魚、気候良し。人情のまち釜石。釜石は人を受け入れてくれるまち

老人に住んでもらうのもひとつの産業。

病院、ショッピングモール、孫の楽しめる所。

生業：仮設にありながらの雇用の場所つくって。新しい何かを加えるチャンス。水産業、地場産業、企業誘致、産業(特区・土地)

土木工事で雇用が生まれる。仕事をしたくても場所がない。仕事再建への対応も必要。

住むところと仕事の関係、両方必要。避難ビル？職場がどうなるか？

命が助かった後の仕事場が必要。

農地

- ・ 農業従事者の雇用を含めて今後の農地利用に課題あり
- ・ 農地を今後どう利用するか？ 塩トマト農園として利用。農業従事者の雇用も。

商業

- ・ 住居との関係があり、車で買い物に行く人が多い
- ・ 機能の集約が今後の課題
- ・ コンビニ1つ、2つあればいい。 車ある家は遠くでもいいが、住みやすく。
- ・ 「住」の中心が戻らなければ、商業地はそんなにいらぬ。
- ・ 機能の集約化
- ・ 人を集める施設「道の駅」良い。

公園

- ・ 公園を拡大し、ビオトープをつくる
- ・ 国立公園を拡大。
- ・ 広大な公園を作って集客を！ビオトープ的発想。

事業のスピード

・早期実現の必要性

- ・時間がないので急いで対策を 早期に実現してほしい

情報の重要性

・ 災害時の情報伝達の重要性

・ 非常時でも対応できるようにしておくこと

- ・ 通信の大切さ、衛生電話。
- ・ マグニチュードの 8、9 となると強さイメージ(倍数)がわからない。表現。
- ・ 警報が聞けたがすぐ切れた。
- ・ 情報伝達を。正しい情報が欲しかった。
- ・ 非常時でも対応できる防災無線が欲しい。バッテリーとか。

その他

- ・ WS の情報自体知らなかった。
- ・ 自治会、ルールづくり、工夫。
- ・ 集会所の鍵、談話室。信頼関係。
- ・ 最初のルールづくり、コミュニティ。第三者が入る。

・ 仮設等からの交通

仮設・在宅(介護度)、買い物、通学。

在宅医療、仮設では我慢している。

仮設の環境整備が必要。バス停からの道路(暗くて危険)。